

環境活動レポート

発行：平成22年11月1日

平成21年度

平成21年8月～平成22年7月

株式会社雄島試作研究所

当社の概要

事業者名及び代表者名

株式会社 雄島試作研究所
代表取締役社長 野田 一房

所在地

- 本社工場 東京都武蔵野市西久保 3-10-28
 - 第二工場 神奈川県横須賀市武 3-17-1
- : EA21対象事業所

環境保全関係の責任者及び担当連絡先

責任者 代表取締役社長 野田 一房
担当者 花島 忠義
連絡先 TEL 0422-52-0167 FAX 0422-54-2632

事業内容

精密機器の設計, 試作及び製造販売

事業の規模

*年度: 8月から翌7月

売上高		3億700万円
主要製品生産量	金属製品	1.155
	(kg) その他製品	0.495
従業員		26人
床面積	武蔵野工場	452m ²
	横須賀工場	255m ²

2. 環境目標とその実績

(1) 環境への負荷の低減目標

目標：平成18年度の実績を基準に2%減とした。

中期目標

単位 /売上高（億円）	18年度 （基準）	21年度 （目標-2%）	22年度 （目標-3%）	23年度 （目標-4%）	24年度 （目標-5%）
二酸化炭素排出量（Kg-CO ₂ ）	18600.43	18228.42	17681.57	16974.31	16295.33
廃棄物排出量（t）	0.131	0.128	0.125	0.120	0.115
総排水量（m ³ ）	105.67	103.56	100.45	96.43	92.57
化学物質使用量（Kg/億円）	0.102	0.100	0.097	0.093	0.089

(2) 主要な環境活動計画の内容

◇電力の削減

使用していない場所などの電灯は消灯し、電灯器具などもできるだけ消費電力の少ないものを購入する。室内空調は節電温度を夏冬設定し実行する。

◇水道の使用量削減

水道の蛇口を頻繁に閉め無駄な水量を使用しない。またトイレ等の水量調整を最小にする。

◇紙の使用量削減

できるだけ再生紙を利用し、裏面が白紙の使用済み用紙は裏をメモ等に利用する。また、できるだけ両面コピーを行い紙量節減を実行する。

◇廃棄物の適正処理と再生利用

ゴミの分別回収を徹底し、無駄なゴミを出さないように各自努力する。

◇工場内での取り組み

当工場では、機械加工などにより排出される廃油や金属屑などはリサイクル業者引取りにより、リサイクル、環境負荷低減を実施している。また、省エネルギー設備や騒音防止設備などが既に導入されており、これらの設備の管理を適切に行うことが環境負荷低減の第一歩である。特に、以下の項目について、管理を徹底させることに重点を置く。

- ① 工作機械の設備、点検の徹底。
- ② 廃油や金属屑などの排出物を、リサイクルのための分別の徹底。
- ③ 工場における昼休みの消灯の徹底。

◇設計部門での取り組み

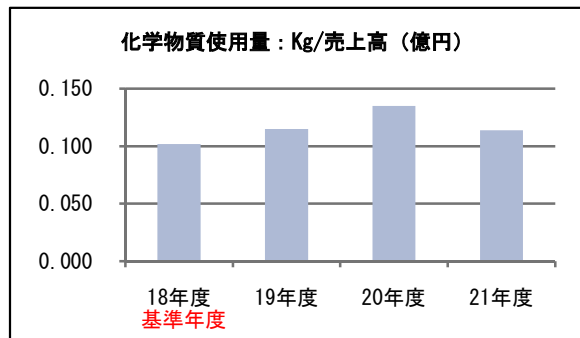
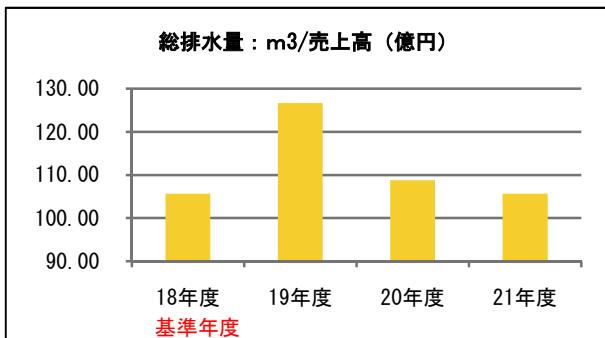
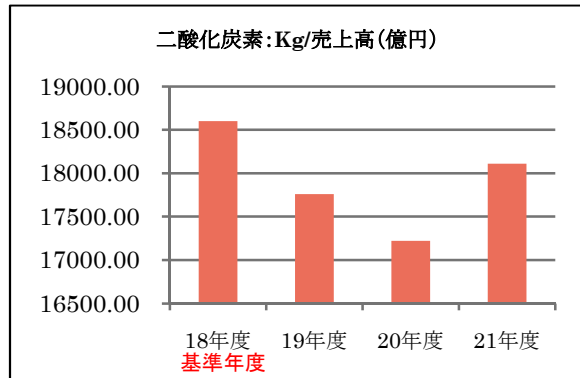
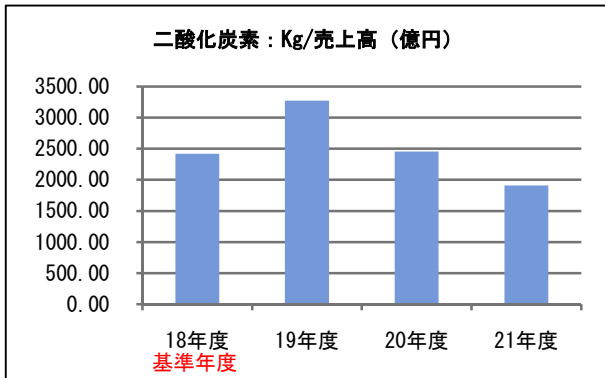
製品製作時の環境を配慮し、製品の設計にあたっては、材料から内蔵される備品まで有害材料などを使用せず、再生資源の積極的利用に取り組む。また、製品製作時にはエネルギー削減を指向し、部品類の簡素化、リサイクル化に取り組む。

◇管理部門での取り組み

管理部門におけるコピー用紙は、再生紙使用や両面コピーの徹底により、紙類の使用量削減。取引のある会社や横須賀工場などの発送物には出来る限り通い箱を使用し、段ボール箱や梱包材の削減に努める。

(3) 実績と評価

改善・削減項目	具体的な取り組み	活動結果
購入電力の削減	使用していない場所、不在箇所などは消灯する。 室内空調の節電温度を設定する。(夏26±1度、冬21±度)	○ △
紙の使用量削減	再生紙利用をする。(使用済用紙の裏面活用、両面コピーでの使用)	×
ゴミの減量化	ゴミの分別回収徹底する。 廃棄物の適性処理と再生利用	× ×
工場内でのエネルギー削減	工作機械の設備点検をこまめにする。 廃油や金属屑などのリサイクル利用の徹底する。	△ △



二酸化炭素排出量と総排水量についてはともに目標をクリアできた。しかし、廃棄物排出量は保管データ、材料等を処分したため、目標をクリアするどころか昨年をも上回る結果となった。また、化学物質使用量引き続き削減の努力が必要である。

* 20年度から環境への負荷の状況データの抽出時期を変更
 19年度以前 当年4月から翌年3月
 20年度 平成20年4月から平成21年8月

21年度目標に対する削減率・および達成率

単位	18年度 (基準)	21年度 (目標-2%)	21年度 (実績)	削減率	達成率	結果
二酸化炭素排出量 (Kg-CO ₂)	18600.43	18228.42	18111.71	0.03	100.6%	達成
廃棄物排出量 (t)	0.131	0.128	0.175	-0.34	73.4%	未達
総排水量 (m ³)	105.67	103.56	92.16	0.13	112.4%	達成
化学物質使用量 (Kg/億円)	0.102	0.100	0.114	-0.12	87.7%	未達

(4) 次年度環境目標

平成22年度環境目標は、基準年平成18年度に対し以下のとおりとなる。

今年度中期目標では基準年度から-1%ずつ削減としたが、目標値の設定を変更することにする。

(1) 温室効果ガス排出量

単位 Kg-CO ₂ /売上高(億円)	18年度 (基準)	22年度 (目標-2%)	23年度 (目標-2%)	24年度 (目標-2%)
二酸化炭素排出量	18600.43	18,228.42	18,228.42	18,228.42
購入電力排出量	16197.18	15873.24	15873.24	15873.24
電力消費量kWh	105,521	103,411	103,411	103,411
化石燃料排出量	2403.25	2355.19	2355.19	2355.19
都市ガス消費量 Nm ³	605	593	593	593
ガソリン消費量 L	3152.3	3089.3	3089.3	3089.3
計	18600.43	18228.42	18228.42	18228.42

(2) 水資源投入量

単位 m ³ /売上高(億円)	18年度 (基準)	22年度 (目標-2%)	23年度 (目標-2%)	24年度 (目標-2%)
総排出量	105.67	103.56	103.56	103.56
上水使用量 m ³	317	311	311	311
計	105.67	103.56	101.44	103.56

*青字: 数値は実消費量・実使用量

(3) 化学物質排出量

単位 t/売上高(億円)	18年度 (基準)	22年度 (目標-2%)	23年度 (目標-2%)	24年度 (目標-2%)
ジクロロメタン	0.102	0.100	0.100	0.100
計	0.102	0.100	0.100	0.100

(4) 廃棄物排出量: 一般ごみ

単位 t/売上高(億円)	18年度 (基準)	22年度 (目標-2%)	23年度 (目標-2%)	24年度 (目標-2%)
廃棄物排出量可燃・不燃ごみ	0.131	0.128	0.128	0.128
計	0.131	0.128	0.128	0.128

(5) グリーン製品購入の推進 毎年3品目の切替を実施

	18年度 (基準)	22年度	23年度	24年度
グリーン製品	0	トータル15品目	トータル28品目	トータル31品目

3. 環境関連法規等への違反，訴訟等の有無

関連法令	該当規制・対象施設等	管理・取組	遵守の状況
都民の健康と安全を守る環境に関する条例 (都条例)	騒音規制	コンプレッサーの騒音測定 (1回/2年)	適合
	振動規制	コンプレッサー接地面に振動 吸収材を設置	適合
	適正管理化学物質の使用量の報告	塩化メチレン(ジクロロメタン) の大气への拡散防止	適合
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物の適正保管	保管場所の設定管理 法定表示	適合
	産業廃棄物管理票(マニフェスト)の管理	産業廃棄物管理票交付等状 況報告書の発行、保管	適合
武蔵野市下水道条例	排水の水質	下水に廃液、薬品を流さない	適合

*上記法令類の遵守状況を確認したが違反はなく、また関係当局からの違反の指摘や訴訟は過去3年間ありません。

4. 教育訓練の実施

(1) 【防火訓練の実施】

社内にて防火訓練を実施した。 <横須賀工場 実施日：4月26日>
<武蔵野本社 実施日：5月27日>



* 緊急事態の社内マニュアルに基づき実施



5. 代表者による全体の評価と見直し

平成21年度では、二酸化炭素の排出量が目標を達成できたのはよかったが、廃棄物排出量では昨年をも上回る結果となった。

これに関しては、特に部品カタログの廃棄も関与しているので、次年度より新旧カタログの交換時には、カタログ持参先に旧カタログの持ち帰りを依頼することとする。また、化学物質排出量については、洗浄器を2槽に増やし、粗洗浄と仕上げ洗浄に分けて使用量を減らすなど、実質的な努力実行をしていく。

6. 平成22年度環境活動計画の内容

◇ 数値目標を達成するための取組

①二酸化炭素量の削減

平成18年度実績から**-2%**削減する。

- ・ 休止中の機器の電源は落とし、昼休み等の消灯および部分照明を継続する。
- ・ 省エネ蛍光灯に順次切り替える。
- ・ 冷暖房の温度管理をする。(冷房26° ±1° /暖房22° ±1°)

②水資源投入量の削減

平成18年度実績から**-2%**削減する。

- ・ 蛇口に節水弁の取付け。

③化学物質排出量の削減

平成18年度実績から**-2%**削減する。

- ・ 代用品をさがす。

④廃棄物排出量の削減

平成18年度実績から**-2%**削減する。

- ・ 再生紙の利用を増やし、不要になった紙類はシュレッダーを利用し緩衝材にしたり工夫をする。

⑤グリーン製品購入の推進

購入品目は、毎年**3品目**の切替えを行う。

- ・ 梱包・原材料の簡素化。